

幸福崎町文化財だより 80

福崎町教育委員会
柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館

大庄屋三木家と冠婚葬祭

三木家の 特別展示 婚礼

入館料無料

11月30日(火)まで開催!

会場 三木家住宅 主屋

開館時間 9:00~16:30 (入館は16:00まで)

休館日 月曜日、祝日の翌日

(11月23日は開館)

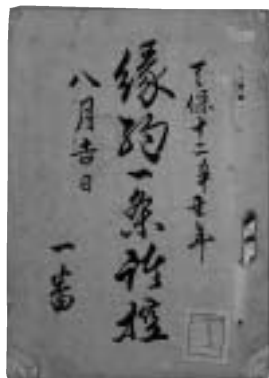
通深の婚姻の記録

三木家7代当主である通深(一八二四〜一八五七)は34歳の短い生涯でしたが、懐徳堂(大坂の町人の学校)への入門や江戸遊学など文化的部分で多面的・精力的に活躍した人物です。

通深は、天保13年(一八四二)に妻鹿村(現姫路市飾磨区)勝間藤兵衛の娘照と結婚します。弘化2年(一八四五)に離婚。弘化4年に室津(現たつの市)町大年寄野本源三兵衛の娘令と再婚しています。初婚の記録は6代通明(一七八二〜一八四四)が記したものが残っており、再婚では通深自身が横長帳45丁に及び克明に記録したものが伝わっています。

「縁約一条諸控」

江戸時代の結婚は、家と家



『縁約一条諸控』

との結びつきという意味が強く、親や親類などが大きく関わってきました。父通明の筆からなる『縁約一条諸控』(天保12年8月)は、18歳の通深に縁談が持ち上がったところから婚礼に至るまでの過程が記録されています。この資料でも結婚する当事者2人の存在は薄く、父親や縁談の仲介役をとめた叔父の三木武八郎、勝間家の相談役であった飾万津黒田屋など婚礼に向けて奮闘する周囲の人びとの生き生きとした姿がみられます。

江戸時代に姫路藩の大庄屋を務めた三木家の冠婚葬祭は、その家柄にふさわしく豪華なものである一方、好学の家風により代々蓄積された教養・文化が随所に刻まれていました。そのような、子孫のために詳しく書き残された記録から知ることができます。

本展では、三木家で行われた冠婚葬祭の中から、「婚礼」をとりあげ、近世から近代にかけて三木家で行われた縁組や祝言・祝宴など、残された記録を通して紹介します。



高砂人形(江戸時代後期)

『三木通深後妻婚姻様記』

再婚に際して通深自身が記したこの記録は、婚礼の準備や祝言の詳細、祝宴の献立など、婚禮の当日のようすについて詳しく記されています。

弘化4年12月13日、花嫁は夜半前に三木家へ到着しました。江戸時代の祝言は、一般的に夕方から夜半にかけて始まります。婚礼の儀式が終わると、舞、謡、小鼓を加えての賑やかな宴会です。祝宴は、季節のものを中心に集めたごちそうがふるまわれ、翌日の七ツ時（午前4時）まで盛大に行われました。

この式当日には、合計91人もの方が手伝いました。後日、この手伝いの人たちへのねぎらいの祝宴も行われています。



『三木通深後妻婚姻様記』

三木家に残る婚礼の道具



【左】提子 【右】長柄銚子

長柄銚子は、祝言の盃に神酒を注ぐ道具です。柳田國男の『故郷七十年』によると、銚子で三々九度のお酌をする役は、5歳の男の子・7歳の女の子が行い、男蝶・女蝶と呼ばれました。國男は辻川で過ごした幼少期に、この役を2度務めています。このとき、男の子には箸で魚をつまみ「おさかなこれに」という口上がありました。

三木家住宅特別展示 “コラボ企画”

特別展示「三木家の婚礼」と「もちむぎのやかた」と「ファームズキッチン三木家」がコラボレーション！特別展示期間中、江戸時代の三木家婚礼の献立にちなんだ料理を2つのレストランで食べることができます。ぜひ足をお運びください。

※ファームズキッチン三木家は予約が必要です。
(☎0120-293-958)



島台（江戸時代後期）

昭和30年ごろの福崎町域での婚礼でも、男蝶・女蝶の役があったようです。もしかしたら、子どもころに経験された方もおられるのではないのでしょうか。

伊勢大神楽公演中止のお知らせ

令和3年度の伊勢大神楽公演は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止いたします。

公演を心待ちにしていた皆さまへ心よりお詫び申し上げますとともに、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

柳田國男・松岡家記念館

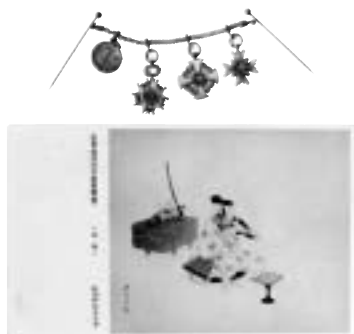
展示では、通深の婚礼の記録を中心に、大庄屋三木家の婚礼のようすを紹介しています。また、今に伝わる婚礼衣装や道具など、三木家の華やかな資料を実際に見ることができます。ぜひ、お越しくください。

松岡映丘生誕140年記念展

11月28日(日)まで
開催中!!

松岡映丘展～近代大和絵の導き手～

柳田國男・松岡家記念館で開催中の松岡映丘展では、町内外からお借りした作品のほか、ゆかりの品々や、初公開となる松岡映丘と三木家のつながりを示す書簡も展示します。ぜひ、お越しください。



(上) 松岡映丘が授けられた略章
(下) 三木家宛の松岡映丘絵葉書

松岡映丘展記念講座

松岡映丘展の開催を記念して、当館顧問の石井正己先生にご講演いただきます。

新型コロナウイルス対策のため、リモートでの講演をいただきます。先着定員制となりますので、お早めに下記お問い合わせ先までお申し込み下さい。

リモート講演

講師：石井正己 先生

日時：令和3年11月20日(土)

13:30～15:00

場所：福崎町役場 2階大会議室

定員：先着25名

お問い合わせ先：☎0790-22-1000

記念展図録発売中!



A4サイズ
1部300円

松岡映丘展図録を作成しました。松岡映丘の生涯や、記念館の収蔵作品について解説しています。

ぜひ、お買い求めください。

～令和3年度/特別展～ れきみに眠る 蔵書の世界



幕末のベストセラー本! 『日本外史』

12月5日(日)まで開催

三木家当主や幼少の柳田國男が
読んだ本とは?

歴史民俗資料館で開催中の特別展では、大庄屋三木家蔵書に関する展示もしています。『三木家蔵書目録』によれば、同家には4,000冊を超える蔵書があったことがわかっています。しかし、『蔵書目録』所載の書籍は明治時代に売却されたこともあり、現在はわずかに残るのみです。

展示では、『蔵書目録』をもとに当館蔵書を用いて三木家蔵書の再現も試みています。

ぜひ、ご覧ください。

歴史民俗資料館だより

連続講座②のご案内

講座では、令和2年度日本民俗学会研究奨励賞受賞者の市東真一さんをお招きし、「熊谷うちわ祭」を事例として、祭りをとりまく環境の変化や携わる人々についてお話しいただきます。

ぜひ、ご参加ください。

■演題：祭礼における旦那衆の権威の創造

■日時：12月4日(土) 13:30～15:00

■講師：市東真一さん(神奈川大学日本常民文化研究所)

■場所：役場2階大会議室

■受講料：無料(要申し込み)

■申込期間：11月19日～11月30日(受付は9:00～16:00)

※新型コロナウイルス感染症対策として、今回の講座は先着順の申し込み制とします。

■申し込み・問い合わせ先：歴史民俗資料館 ☎22-5699

リモート講演

第9回子どもふるさと展

開催中!!

福崎町では、町内の小・中学生を対象に、地域の歴史や文化を調査研究した作品を募集し、優れた作品には「柳田國男ふるさと賞」を贈り表彰しています。

本展では、第9回柳田國男ふるさと賞での優秀作品を展示します。福崎町内の小・中学生の力作をぜひご覧ください。

会期 12月5日(日)まで
場所 柳田國男・松岡家記念館2階 会議室
問合せ 柳田國男・松岡家記念館

(☎22・1000)

今年も力作がそろったよ



かぞくみんなで見に来てね!

日本民俗学会 研究奨励賞表彰式

福崎町では、日本民俗学会の研究奨励賞に副賞を贈っています。この賞は35歳未満の次世代の民俗学を担う若手研究者へ授与されるものです。

ける研究奨励賞表彰式で、福崎町賞・金10万円をお贈りしました。なお、受賞論文は柳田國男記念館などで閲覧できます。

今年、牧野由佳さん(総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻)の論文「知多半島『朝倉の梯子獅子』の戦後における伝承の変容」が受賞されました。10月9日(土)に神奈川大学からオンライン中継された日本民俗学会第73回年会にお



受賞者の牧野さん(左)と高橋教育長(右)

岩田健三郎さんの版画教室

今年も岩田健三郎さんによる版画教室を開催します。版画で手作りの年賀状を作ってみませんか。

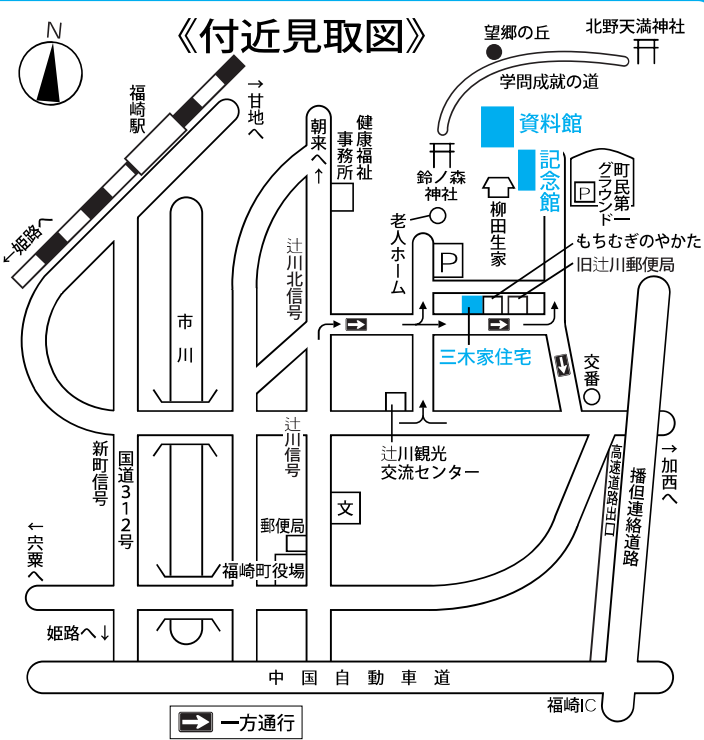
日程 12月5日(日)
時間 13:30~
場所 歴史民俗資料館2階
材料費 100円
持ち物 筆記用具、彫刻刀
定員 20名
問合わせ 柳田國男・松岡家記念館 (☎22-1000)

11月は文化財保護 強調月間です

文化財は、地域の歴史を伝えてくれる大切なものです。かけがえのない郷土の歴史遺産を、これからも長く未来へ守り伝えていきたいと思います。



大塚古墳(山崎)



柳田國男・松岡家記念館 歴史民俗資料館 利用案内

開館時間 午前9時~午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)、12月28日~1月4日
入館料 無料
交通 JR播但線で福崎駅下車、タクシー約10分。車は播但連絡道路・中国自動車道で福崎ICから約5分、または国道312号線を利用。



福崎町文化財だより(80) 発行 令和3年11月4日
●福崎町教育委員会
福崎町南田原316の1
☎0790②05660
●柳田國男・松岡家記念館
●神崎郡歴史民俗資料館
福崎町西田原108の12
☎0790②10000 (記念館)
☎0790②5699 (歴史)

松岡五兄弟

松岡映丘

第62話



柳田國男は『故郷七十年』の中で、辻川にあった人力車の立場（中継所）の思い出を語っています。立場に集まる人力車の背には、武者絵が描かれており、國男・静雄・輝夫の兄弟は、毎日のようにここに通ったそうです。（「東京の印象」）武者絵とは、その名の通り甲冑姿の武士や合戦の場面を描いたもので、國男は曾我兄弟（仇討ちで有名な鎌倉時代の武士）の絵などについて、輝夫に説明してやっただけです。（「末弟松岡映丘」）晩年の國男が何度も思い出すほど、立場の風景は印象深いものだったのでしようか。

（柳田國男・松岡家記念館蔵）
『源頼義』



男・松岡家記念館には、輝夫が6歳のころに描いたという絵が残されています。平安時代の武将、源頼義を描いたその絵は、複雑な構造の大鎧が丁寧に描かれています。胴部分の文様や刀の装飾、鎧の下に着込んだ着物の柄までも細かく描き込まれ、さらには鮮やかに彩色されています。何らかの手下があったのでしょうが、よほど夢中になって描かないとここまで細かな描写はできないでしょう。一生懸命に武者絵を描く輝夫少年の姿が目に見えそうです。

〜福崎の身近にある歴史を掘り起こそう〜
鎧を愛した日本画家

神戸大学大学院人文学研究科 特命助教 井上 舞

輝夫の武者絵好きはその後も続きました。低年齢層の子ども向けに創刊された雑誌『小国民』に挿絵として掲載された武者絵を眺め、模写することで、絵の技術を磨いていったのです。

ところで同誌に武者絵の挿絵を描いていたのは、後に輝夫も参加する「歴史風俗画会」を主宰し、東京美術学校の教授にもなった小堀鞆音でした。小堀は鎧を好み、古い鎧や武器を修理するにとどまらず、著名な鎧の復元に取り組みました。仲間や弟子にも制作を勧め、ときに武者行列を催したり、鎧をまとった姿を写真に収めたりしています。輝夫も、長じて小堀と知りあった後、こうした催しに参加していたようです。

輝夫もまた、小堀の影響を受け、いくつかの鎧を復元しています。そして、自らも鎧をまとい、弟子たちにも衣装を着せ、さまざまなお宝を決定した写真を何枚も残してい

ます。



『平治の重盛』画稿
（柳田國男・松岡家記念館蔵）

このように書くと、小堀鞆音や輝夫らは、何やら趣味に全力を尽くしているように思えますが、実際のところ、日本画、特に武士や合戦の絵を描くために、鎧の研究は必要不可欠でした。昔の鎧は残っていないも、実際にそれを着用することはできません。とはいえ、並べられた鎧だけを見て、鎧をまとって動く人を書くことは困難です。そこで、鎧や武器などを復元し、これを身につけてさまざまな動きの写真を撮ることで、よりリアルな表現を求めようとしていたのです。

姫路市立美術館には、鎧姿の輝夫の写真が何枚も収められたアルバムが所蔵されています。それらの中には、「平治の重盛」などの制作にモデルとして使われたとみられる写真が確認されます。また、輝夫は昭和に入って以降、多くの鎧武者を描いていますが、それらの鎧は、いずれも細部まで非常に丁寧に描き込まれています。これらは、鎧の復元やそれにもなう調査・研究の成果であったと考えられます。

とはいえ、参考資料として鎧姿の写真が必要なのであれば、弟子に着せればよいわけで、自ら鎧をまとって格好良く写真に収まる映丘先生には、武者絵に夢中だった輝夫少年の心が多分に残っていたのでしよう。